

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長

インフルエンザの市内流行開始に伴う注意喚起について（依頼）

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、第 46 週（11 月 13 日～19 日）の定点医療機関当たりの患者報告数が 1.04 となり、流行開始の目安(1.0)を超えたため、11 月 22 日にインフルエンザの市内流行期入りを公表しました。

区別の流行状況では、南区を始め、保土ヶ谷区、栄区、港南区、戸塚区で定点医療機関当たりの患者報告数が流行開始の基準を超えています。

市内でインフルエンザによる学級閉鎖を行った学校は 11 校に上り、高齢者施設での集団発生もすでに 2 件報告されています。

集団発生の多くは職員や面会者による持ち込みが発端となっており、施設に持ち込ませないための対策が重要です。

ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、各医療機関における持ち込ませない、広げないための対策を徹底するよう「別添」の対応について、院内で御周知くださいますようお願いいたします。

<添付資料>

- 1 別添「施設への持ち込みと感染拡大を防止しましょう！」
- 2 横浜市インフルエンザ流行情報 1 号

11 月 22 日に横浜市はインフルエンザの流行期に入りました！ 施設への持ち込みと感染拡大を防止しましょう！

- ◇ 市内では学級閉鎖や高齢者施設での集団発生が報告されています。
- ◇ 集団発生の多くは職員や面会者による持ち込みが発端となっています。
- ◇ インフルエンザワクチンの最も大きな効果は「重症化」を予防することです。一定程度発病を予防することができますが、接種すれば絶対にかからないというものではありません。予防接種を過信せず感染予防策を徹底しましょう。

1 持ち込みの防止及び感染拡大防止

(1) 職員の健康管理の徹底（予防接種を過信せず予防策を徹底する。）

- ◆ 出勤前の検温の徹底（発熱者は勤務させずに受診させる。）
- ◆ 発熱などの体調不良時は出勤前に必ず管理者へ報告するよう指導
- ◆ 無症状の職員も含めて全員のマスクの着用を徹底（症状が出る 1 日前からウイルスが排出されます。）
- ◆ 1 ケア 1 手洗い、手袋の使用の徹底

(2) 面会に関する注意事項

- ◆ マスクの着用、手洗い又はアルコールによる手指消毒の積極的勧奨
- ◆ 地域の流行状況に応じた面会制限の実施（今後の注意報・警報にご注意ください。）

2 流行情報の確認

横浜市衛生研究所では、毎週木曜日に「横浜市インフルエンザ流行情報」を発出します。区ごとの発生動向を公表していますので対策にお役立てください。

- ◆ 横浜市衛生研究所HP（市内の最新の感染症発生状況）
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

3 参考情報

横浜市保健所では、「冬の感染症予防啓発」の一環として、保健所ホームページに 11 月 24 日から啓発ポスターを掲載する予定です。

- ◆ 横浜市保健所HP
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/>

- ◇ 今年度は、予防行動の基本となる「手洗い」をテーマにポスターを作成しました。
- ◇ 自由にダウンロードできますので、施設内での感染予防対策にご活用ください！！



- 石けんを使ってよく泡立て、十分に洗い流しましょう。
- 指先や指の間、手首などは、特に丁寧に洗いましょ。
- トイレ後や食事前、帰宅時など、こまめに手を洗いましょ。

横浜市保健所

横浜市健康福祉局健康安全課
電話：045-671-2463

横浜市インフルエンザ流行情報 1号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

横浜市内がインフルエンザの流行期に入りました

【概況】

2017年第46週(11月13日～19日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で**1.04**と、流行開始の目安となる1.00を上回りました。例年、インフルエンザは12月頃から3月頃まで流行します。

第46週では、10歳未満の報告が約7割を占めています。

学級閉鎖等の発生は、例年より早く第37週(9月11日～17日)で報告され、現在までに合計11件報告されています(主に小学校)。

第46週の迅速診断キットの結果は **A型 86.6%**、**B型 13.4%**と、A型が多く検出されています。全国のウイルス検出状況^{※2}では、AH3型、AH1pdm型、B型(山形系統)、B型(ビクトリア系統)のいずれも検出されています。

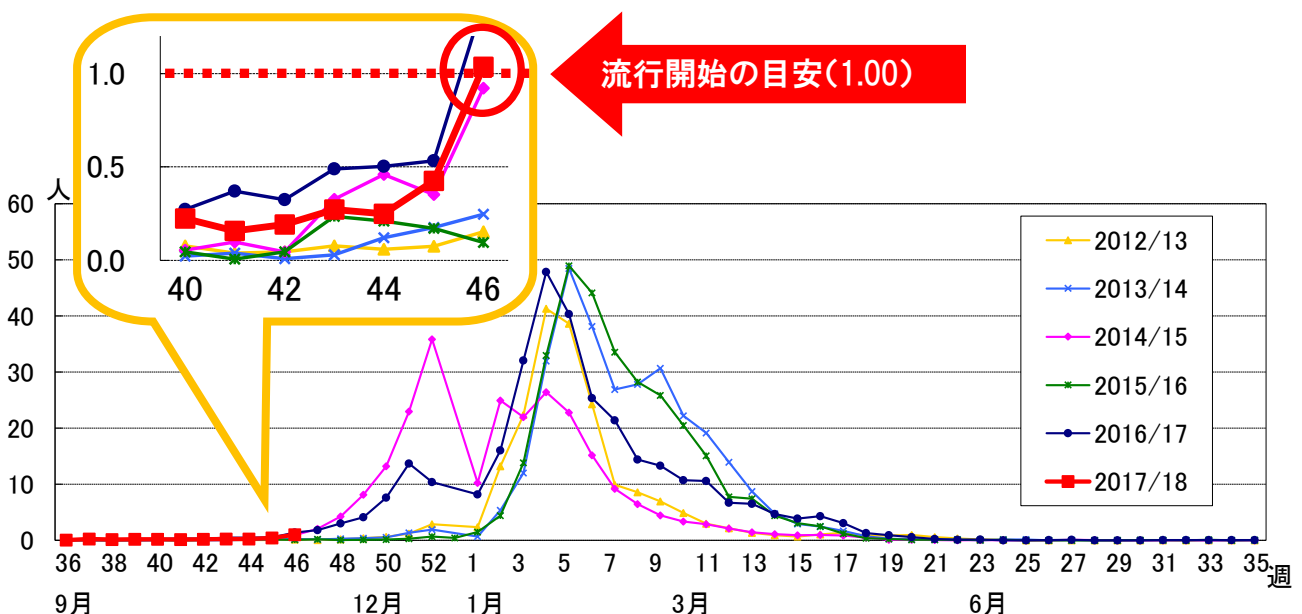
今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策^{※3}が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

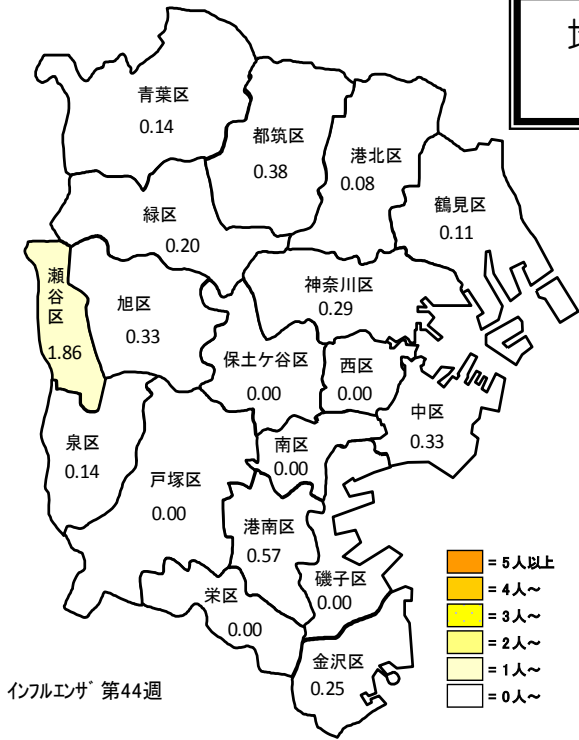
※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※3 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

○市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第46週で1.04と、第44週の0.25、第45週の0.43から増加し、流行開始の目安である1.00を上回りました。



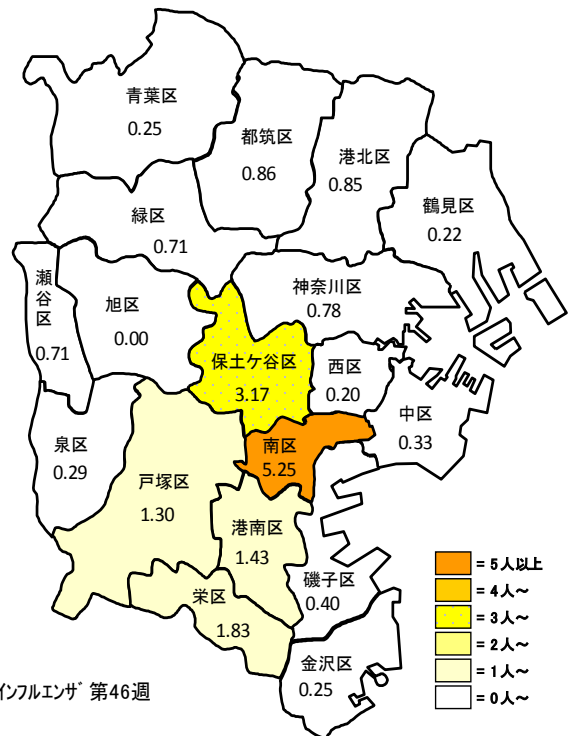
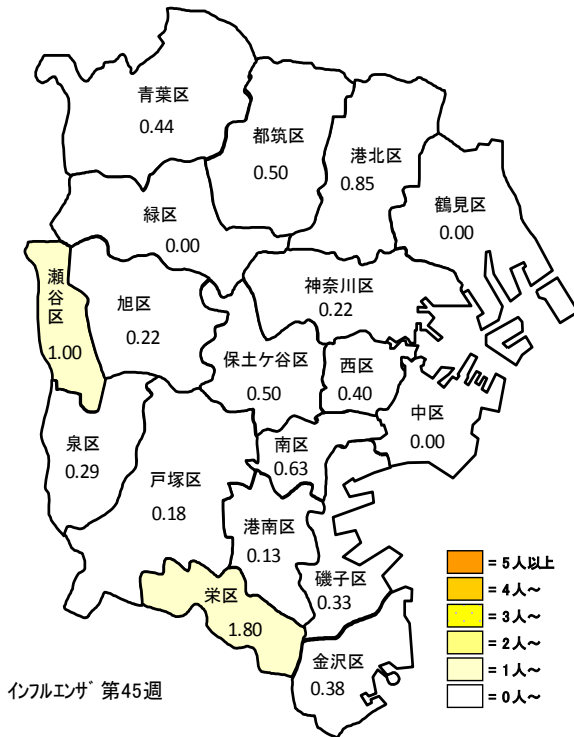
地図で表した直近3週間の区別流行状況
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



《参考》

昨シーズン (2016/17年) の流行推移

- ・流行の開始【定点あたり1.00超】
第46週 (11月14日~20日)
- ・流行注意報発令【定点あたり10.00超】
第51週 (12月19日~25日)
- ・流行警報発令【定点あたり30.00超】
第3週 (1月16日~22日)
- ・流行警報解除【定点あたり10.00未満】
第12週 (3月20日~26日)



※参考リンク

近隣自治体の流行状況

- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9279
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2442